

## 第 6 回理科ワーキンググループについて

2016 年 3 月 29 日に中央教育審議会教育課程部会の理科ワーキンググループが開催された。14:00 から 16:00 まで文部科学省 3 階 2 特別会議室で行われた。一般傍聴者は通常通り 30 名程度であった。

今回の議題は以下の通りである。

1. 資質・能力の育成のために重視すべき理科の評価の在り方について
2. 高等学校理科の履修科目について
3. その他

最初に、議題 1 の資料について簡単に説明があった。資料 3「総則・評価特別部会の議論（学習評価）について」では、主に総則・評価部会で議論された内容がまとめてある。目標に準拠した評価を目指し、学力の三要素に合わせた、三つの観点別に評価を行うことが述べてある。資料 4「資質・能力の育成のために重視すべき理科の評価の在り方について（案）」では理科の特性に合わせた評価の趣旨が示されている。実際の評価の規準は学校ごとに設定されるものであるが、参考資料として文部科学省が示す例となるものがこの考え方を基にしてブレイクダウンしていくことによって作成される。

14:20 頃より自由討議となった。

学力の三要素に応じた三観点での評価という方向性については多くの委員が賛成としたが、現場の意見として、態度という内在的なものを評価することは厳しくおざなりになる不安があるという委員もいた。「思考・判断・表現」の評価が中核になってくるので、それを評価出来る枠組みと手順を示すことが大事であるとの意見もあった。さらに、3 つの観点は相互に関連しているので、現場が混乱しないよう簡潔であるべきとの意見が出された。その他には、「知識・技能」の項目の中に「探究する技能」が入っているが、探究活動には思考力・判断力も必要であり、違和感があるという意見や、現行との違いがあまり感じられないので、見通しや振り返りについての態度面をもっと協調するべきだという意見もあった。

最終的には、総意としては概ね合意しているとして主査に一任することとなった。

15:10 頃より議題 2 について資料の説明があった。

参考資料として日本学術会議の「これからの高校理科教育のあり方（提言）」が示され、「理科基礎（仮称）」として 4 領域をまとめた総合科目にするべきだという意見があることが紹介された。しかし、文部科学省の案は、理科課題研究を数理探究という新しい科目に変更すること以外は現状のままにとどめるというものであった。その理由は、これまで理科は

改訂の度に科目の変更がなされてきたという現状があること、小・中学校では総合科目として既に学んでいること、高等学校では各領域の違いを学ぶべきであること、総合科目として広く学ぶためには単位数を増やす必要があり実質的な時間として難しいことなどが挙げられた。

日本学術会議のワーキンググループに参加した委員からも補足があった。

現状では3科目しか履修しておらず、分野の偏りがあるので、4領域をまんべんなく学んでほしいという考えから総合科目を設けるべきということになった。実際には、少数意見のもう1案があり、4科目全履修させ教科間の連携を図るというものであった。総合科目の創設には4領域を専門的に教えられる教員の養成という課題がある。

15:30頃から議題2についての議論となった。

4領域をまんべんなく学んでほしいという趣旨には理解を示す委員もいたが、現状を維持する案に賛成する委員がほとんどであった。

その理由としては、教員養成や単位数の問題の他に、数%しか履修されていなかった地学の履修率が向上しているという現状があることや、10年前に盛んに議論された結果が現状であること、現場の教師の意見を集約した結果、現行の指導要領が評価されていることなどがあつた。現行の科目を継続したうえで、学び方に着目し、探究的な学びとして内容を深めていくべきだとの意見があつた。また、4科目全てを履修しやすくなるようにそれを推奨するような文言を入れてはどうかとの意見もあつた。

次回は4月26日(火)16:30~18:30 文科省3階1特別会議室にて開催の予定である。